

## 「いのちの教育」で大事なことは？ ～三つの柱～

### ① 自分を大切に思える気持ち（自尊感情）を育てること

- ・親や身近な人に、欠点や弱点も含めて「そのまま」の自分が愛される体験によって、自分を大切に思える気持ち（自尊感情）を育てていく。

### ② 「いのち」のつながりと多様性に気づかせること

- ・人間のいのちは、たった一つで存在するものではなく、時空を超えてさまざまないのちとつながっていること。また、それぞれのいのちは、一つとして同じものがなく、ちがう役割を持ったかけがえのない存在であり、互いに認め合い、尊重し合う生き方を見出していく。

### ③ 「いのちの尊さ」と人間としての「生き方」をしっかりと教えること

- ・子どもたちに、体験に根ざした知恵をもって、いのちの尊さや、より充実した人生を送るために何が必要なのかを大人がしっかりと教え導いていく。

## 「いのちの教育」を進める上で留意する点は？ ～七つの視点～

### ① 乳幼児期に安心感・信頼感を育む

- ・親の愛情によって、人に対する「安心感・信頼感」を育む。
- ・「子どもは地域の宝」という考え方に立ち、地域で子育てを支援する。

### ② 自然・社会体験を通して、生きていることを実感する

- ・幼児期から、五感をいっばいに働かせた遊び、成長に合わせた自然体験を重ねる。
- ・子どもが社会的存在として自立するため、自らの役割や責任、社会のルールを学ぶ。

### ③ 人と心が通じ合う言葉の力を育てる

- ・人との温かいかわりの中で、人と心が通じ合う言葉の力を育てる。

### ④ たくましく「生き抜く」力を育てる ～「失敗体験」・「体力」・「危機回避・対応能力」～

- ・困難や失敗、挫折、試行錯誤、成就体験により、たくましく生き抜いていく力を身に付ける。
- ・体力を育てるために、「よく食べ、よく動き、よく眠る」生活習慣を身に付ける。
- ・危機に対する判断・回避能力、危機から抜け出すための対応能力を育てる。

### ⑤ いのちをつなぐ「性」について考える

- ・子どもを産み育て、未来にいのちをつなぐことの尊さを認識する。
- ・心身の成長・発達段階に配慮しながら、「性」に関する正しい知識を教える。

### ⑥ 「食育」を通して、いのちのつながりに気づかせる

- ・一緒に食べる、いのち・栄養をいただく、作る人の思いを感じる、自分の手で作る、手伝うなどにより、さまざまないのちのつながりを実感する。

### ⑦ 広い視野と柔軟な考え方を育てる ～地球的視野とユニバーサルデザイン～

- ・身近な地域から地球のことにまで視野を広げて、柔軟に考える力と行動力を身に付ける。

## 社会全体で「いのちの教育」を進めていくために必要なことは？

### ○ 家庭・学校・地域の教育のネットワーク化

- ・住民主体の取組みやNPO・ボランティアグループなどが主体となった活動と、開かれた学校づくりの取組みとが連携し、新たな地域社会のネットワークづくりを進める。

### ○ 願いの実現をめざす県民全体の取組み

- ・医療・保健・福祉・産業なども含めて、全体として「いのち」を育てる社会システムづくりを進める。